

第 2021-S010 号  
2021 年 9 月 14 日

関係者各位

公益財団法人 日本ライフセービング協会  
ライフセービングスポーツ本部  
本部長 宮部周作

### 「全日本シリーズ」総合表彰に関する変更のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

2021 年 10 月に開催予定の「第 47 回全日本ライフセービング選手権」における、総合表彰の加点方式につきまして、ブロッキングシステムを採用することといたします。

付随して、年間シリーズ総合順位の観点から、「第 34 回全日本ライフセービング・プール競技選手権大会」においても、ブロッキングシステムを採用することといたします。

募集要項発表後の大会フォーマットの変更は、本来ならば避けたいことと考えています。しかしながらブロックごとの選手選出が、今回レースを通じた実力比較ができないことが多く、クラブからの出場者数にも制限が多い現状を鑑みて、またコロナ禍においても競技会を意味あるものとして実施し、その魅力を維持するためにも、この変更を行わせていただくこととなりました。

関係者各位におきましては、何卒ご理解のほど、お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### (1) ブロッキングシステムの概要

個人種目の上位 8 位以内に同一クラブの競技者が複数名入賞していた場合は、最も上位の順位のみが総合得点に反映される。

#### (2) 得点/団体総合順位【変更後】

決勝の結果に対して各種目の上位 1 位～8 位を入賞とし、得点が加算される。配点は以下の通りとする。

1 位-8 点	2 位-7 点	3 位-6 点	4 位-5 点	5 位-4 点	6 位-3 点	7 位-2 点	8 位-1 点
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

- [個人種目]、[チーム種目] とともに同じ得点とする。
- ブロッキングシステムを採用する。

- 団体／クラブの獲得点が同点の場合、1位の種目が多い団体／クラブを上位に、1位の種目が同数の場合は2位の種目が多い団体／クラブを上位に…、として団体総合順位を決定する。
- 決勝で失格の場合は「0点」とする。
- 団体総合順位は、本競技会で実施する種目全体の70%以上の最終競技結果をもって、成立するものとする。

(3) 導入する対象競技会

- 第47回全日本ライフセービング競技会
- 第34回全日本ライフセービング・プール競技選手権大会

以上

公益財団法人 日本ライフセービング協会  
ライフセービングスポーツ本部  
[info@jla.gr.jp](mailto:info@jla.gr.jp)

追記：

以下、いくつかご意見をいただいている点について、この場を借りて回答させていただきます。

「第47回全日本ライフセービング選手権」に向けて、ブロックごとに選出方法が異なり、それにより不平等であるという意見を頂いております。

本戦出場選手の選出方法は、各ブロックに一任しているため、これはそもそも異なってよいと考えています。そしてこれはコロナ禍の影響下にあるなしに関わらず、今後も継続していく方針です。

それは全国9ブロックそれぞれ異なる、地域事情、傘下クラブの状況、ライフセービングスポーツの普及状況などによって、選出方法に自由度があったほうが、ブロックの事情にあったかたちでライフセービングスポーツ普及を図っていただけたらと考えているからです。従来ライフセービングスポーツの盛んな関東～東海地区だけではなく、全国への普及を見据えた施策としてご理解いただきたく存じます。

競技会における不平等があれば、それについては可能な限り解消していきたいと考えています。しかしながら様々な制約条件によって、不平等の全くない競技会はありえないのが実情です。

これまでもブロックによって本戦出場者数に制限があり、西日本や中日本はクラブの最大獲得ポイントが北関東・南関東より少ないという不平等がありましたが、これは競技会のフォーマット上なかなか是正ができませんでした。

新しいフォーマットにおいては、この点において改善が図れたと考えています。前年の入賞者数と決勝進出者数によって、ブロックへ割り当てられる本戦出場者枠が増減され、これにより強い選手の多いブロックには多くの枠が割り当てられていくため、強い選手が多いのに本戦に出場できない、もっとポイントが取れるのに制限がかけられている、という不平等は解消されていきます。

全日本の冠を下ろすべきである、クラブ総合順位をつけるべきではない、という意見もいただいています。しかしながら、このような難しい時期でも従来通りに開催すべきである、という意見も同時にいただいています。

募集要項を発表したあとの大会フォーマットの変更は本来ならば避けるべきですが、今回のブロックキングシステム導入は変更を最小限にしつつ、クラブごとに順位を競うための平等性を確保し、全日本の冠を維持するのに十分なものと考えています。

本来ならば、すべてのライフセーバーに参加いただき、みんなが集う場を作りたいと思い、考えつく限りの可能性を探ってまいりました。結果として我々の恋い焦がれている全日本選手権からは程遠い姿ではあるかもしれませんが、しかしながら現状が精一杯の形であります。

ライフセービングスポーツが衰退してしまわないように、そしてライフセーバーの未来のために、引き続き皆様のご理解とご協力を賜れば幸いです。

